

【実践ノート】

鐘崎縄文人が身につけていた貝輪をつくる実践 鎌田 隆徳

1.はじめに

平成20年度、宗像市民図書館では、「子どもたちに郷土宗像を知る機会をつくり、ふるさとを愛する心を養うこと」を目的にして、小学校高学年、中学生の児童・生徒を対象にして年3回のシリーズで「子どものための郷土史講座」をおこないました。

そこで、講座は、次の2点を基本に据えて構成しました。

子どもたちに、

- 1 宗像市の先史、古代の遺跡を調べ、その時代をくらしただけの人々の様子を考え、知らせていくこと (郷土の遺跡を教材)
- 2 五感による体験活動を通して当時の人々の知恵や工夫、思いや願いにふれさせ、自分たちと当時の人々とのつながりを感じとらせること (体験を通して古代人と会話)

です。

3回の講座の内容は、

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">○ 7月26日(土)<ul style="list-style-type: none">・第1回 「むなかたの縄文時代の人々のくらし」
～鐘崎縄文人が身につけていた貝輪(ブレスレット)をつくってみよう～○ 8月24日(土)<ul style="list-style-type: none">・第2回 「沖ノ島の古代遺跡をさぐる」
～馬形、舟形、人形の石製品をつくってみよう～○ 10月19日(日)<ul style="list-style-type: none">・第3回 「むなかた古代遺産の旅」
～宗像地区の遺跡フィールドワーク(バスツアー)～ |
|--|

としました。

第1回目は、宗像の縄文時代の遺跡とそこから出土している遺物から縄文の人々のくらしを想像するとともに、出土遺物の中から貝輪を取り上げ、鐘崎縄文人が身につけていた貝輪を実際につくってみる体験をおこなう。

第2回目は、ユネスコ世界遺産暫定リスト入りした「沖ノ島と関連遺産群」から、沖ノ島の古代祭祀の話と祭祀遺跡（9世紀から10世紀の露天祭祀遺跡）から出土している滑石製の形代（馬形、人形、舟形）をつくってみる体験をおこなう。

そして、第3回目は、「むなかたの古代遺産の旅」として、宗像地区（宗像市・福津市）の弥生・古墳時代の遺跡（平等寺瀬戸古墳、田熊石畑遺跡、津屋崎古墳群、宮地嶽岳大塚古墳）を回って、古墳の石室の中に入ったり、発掘中の遺跡と出土している遺物を見たり、古墳の大きさを測ったりするなど、直に遺跡を見て学ぶバスツアーをおこなう。

ここでは、下記のことから、郷土の縄文時代の遺跡を教材とした学習の一事例として第1回目の「むなかた縄文時代の人々の暮らし」～鐘崎縄文人が身につけていた貝輪（ブレスレット）をつくってみよう～の実践を紹介します。

平成20年3月に告示された新しい「小学校学習指導要領」（平成23年完全実施）の社会科の第6学年の歴史学習に「狩猟や採集」（内容（1）ア）が加わりました。つまり、小学校の歴史学習に縄文時代が復活したのです。

また、指導計画の作成にあたっては「（2）博物館や郷土資料館等の活用を図るとともに、身近な地域及び国土の遺跡や文化財などの観察や調査を取り入れるようにする。」とあります。

そして、解説書には縄文時代の学習をするには「貝塚や集落跡などの遺跡、土器などの遺物を取り上げて調べ、日本列島では長い期間、豊かな自然の中で狩猟や採集の生活が営まれていたことが分かるような教材開発が必要になってくる。」とあります。

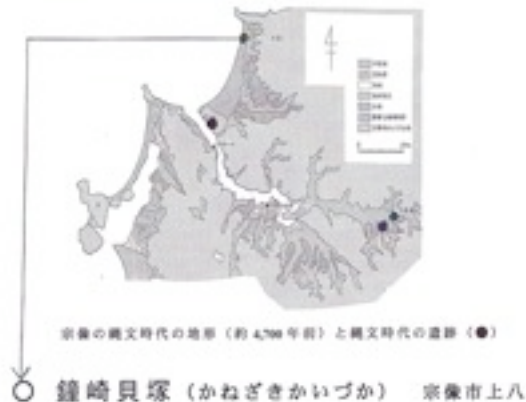
2.実践内容

むなかたの縄文時代の人々は、どんなくらしをしていたのか？ 想像していきましょう！

(1) 宗像の縄文時代の遺跡を探る。

宗像の縄文時代の遺跡の存在から、縄文時代への関心を持たせます。

宗像の縄文時代の遺跡は、沖ノ島の縄文前期の遺跡や後期の鐘崎貝塚、皐月遺跡、吉留下惣原（しもそうばる）遺跡（宗像市）、今川、在地三本松（あらじさんぼんまつ）遺跡（福津市）がある。その中で鐘崎貝塚から縄文時代の人々のくらしを探ります。



今の鐘崎貝塚の様子

◎ 鐘崎貝塚とは、

宗像市鐘崎上八（こうじょう）に所在します。海浜の砂丘上にある縄文時代後期の遺跡で田中幸夫氏によって昭和7年に発掘されました。

サザエ、アサリ、アカガイ等の海浜岩礁性の貝類にシジミ、ニナと淡水産も混じっています。

昭和27年には老人女性1体と鹿角製かんざし2個出土しています。

ここから出土する土器の多くは磨消縄文という文様を施しているのが特徴で九州の縄文時代後期（4千年～3千年前）の縄文土器（鐘崎式土器）の標式遺跡です。

☆ 貝塚とは

大昔の人は、食べた貝がらやそのほかの食べかすを1カ所にまとめて捨てていました。その貝がらなどが積もってできた遺跡を貝塚といいます。

貝塚からは、貝がらのほかに動物や魚の骨、炭になった植物の種、土器や石器、骨角器などが出土します。

これらをくわしく調べていくことによって、その頃の人々が食べていたものや使っていた道具など、くらしの様子がわかってきます。

鐘崎貝塚から出土した遺物は、下記のように分けられます。

- 貝類 ○ 動物、魚の骨 ○ 石器 ○ 骨角器（ほねや角、牙でつくったもの）
- 装身具（身に着けていたもの） ○ 人の骨（大人の女性 他5体）

（2）鐘崎貝塚の出土した遺物を手がかりに縄文の人々のくらしを探る

それでは、出土遺物を一つひとつみながら縄文の人々のくらしを探っていきます。

① 食料としていたもの

○ 貝類

貝類はたくさんの種類があるが、次のように分類できる。

【海でとれるもの】

〈岩場〉

- ・ サザエ・アワビ・レイニシ
- ・ カキ・イガイ・クボガイ
- ・ ヨメガサガイ・オオヘビガイ

〈砂浜〉

- ・ アサリ・ハマグリ・バイ
- ・ サルボウ・ハイバイ・アカガイ
- ・ ウミニナ・ハイガイ・ツメタガイ

【川でとれるもの】

- ・ シジミ・カワナ

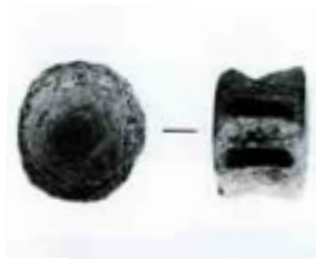
貝は、海でとれるもの、岩場や砂浜でとれるもの、そして、川でとれるものに分けられます。



○ 魚類

海水産や淡水産の貝が混じる

魚類は、サメ・エイ・タイ・フク・ブリなどの骨がみつかります。海に出て漁獲したと思われます。なお、骨は確認されていませんが土器の底にクジラの脊椎痕（せきついこん）らしきものがみられ、クジラも食べていた（？）とも考えられます。



サメの脊椎

ブリ



フク



クジラ

タイ



サメ

○ 動物類

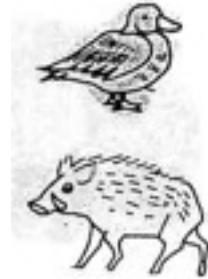
猪、鹿の角、歯、牙、鳥の骨がみつかっています。これらの動物は、四塚連山（湯川山、孔大寺山、金山、城山）に生息していたと思われます。



鹿の下あご



鹿



鳥



猪

② 生活用具について

○ 土器（縄文土器）

「鐘崎式土器」とよばれる土器です。土器の表面に磨消縄文や線で文様が施され、口の部分に把手がついているの也有ります。土器の形は、深い鉢や浅い鉢があります。



把手と磨消縄文の文様



渦巻きの文様

○ 石器と骨角器



石器は、黒曜石の矢じりや石おの（打製、磨製）、石さじ（皮剥）などがあります。

骨角器は、動物の骨でつくられたヤスや釣りばりがあります。

石器



骨角器

⑤ 身につけていたもの（装身具）



出土した女性の人骨の頭近くからシカの角を加工したかんざし2本がみつっています。

また、サメの歯や脊椎の耳飾り、貝輪（貝のうで輪）がみつっています。

かんざし 耳飾り 貝輪

以上、鐘崎貝塚から出土した遺物をもとにして、鐘崎縄文の人々のくらしの様子を想像（想像図）してみると、



海の幸、山の幸に恵まれた豊かな自然の中で

春
魚をとる



夏
貝や海草をとる



秋
動物をとる



冬
木の実をとる



たくましく生きる縄文の人々のすがたが見えてきます。

(3) 鐘崎縄文の人が身につけていた貝輪（ブレスレット）をつくる

鐘崎貝塚から、貝輪が3点出土している。貝の種類は、ベンケイガイかタマキガイと思われます。

そこで、縄文の女性が身につけていた貝輪を当時の道具（石づち、砥石など）を使って実際につくってみましょう。

☆ 貝輪とは

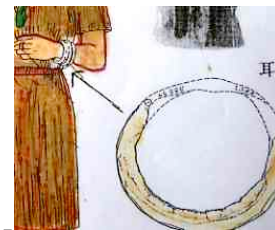
貝を材料にして作られたうで輪。縄文時代のはじめ頃からつくりはじめられています。縄文人にとっては最もなじみぶかいアクセサリーのひとつです。

貝塚から貝輪を着けた人骨（じんこつ）が出土することがありますが、そのほとんどが女性であることから、女性が着けていたアクセサリーのひとつであったようです。

また、輪の穴の大きさ（直径）が小さく、大人の手の大きさでは着けることができないため、女性が子どもから大人になる頃に記念として着けたとも考えられます。

【縄文時代の貝輪に使われていた貝】

- ・サルボウ・サトウガイ・アカガイ
- ・タマキガイ・アカニシ・ベンケイガイ
- ・イタボガキ・マツバガイ・オオツタノハイガイ



☆ 材料及び道具は、

- ベンケイガイ
- 石づち（神湊海岸から採集）
- 砥石（砂岩、神湊海岸から採集）
- こん棒（木づち） ○ 鉄ヤスリ〔予備〕
- 砂 ○ コンテナ（砂いれ）
- ボウル（水入れ）



ベンケイガイ

貝は、ベンケイガイ、道具の石づち、砥石は神湊海岸の自然石を使用します。なお、こん棒は、鹿の角（鹿の角は堅く、叩いて穴を広げる道具の一つといわれている）の代用として、鉄のヤスリは穴を広げるための予備道具とします。



石づち



砥石（砂岩）

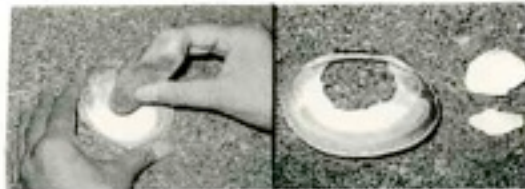
☆ つくる順序

□ つくり方

☆ 材料及び道具

- ペンケイ貝 ○ 石づち ○ と石 (○ ヤスリ)
- 砂の入ったコンテナ (箱)

① 砂の山をつくる。



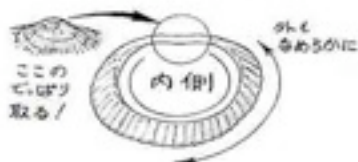
② 貝をのせ、内側から石づちでたたき、穴をあける。



③ 貝を表にかえて、たたき穴を大きくする。
(内側からたたいてもよい)
※ 割れないようにしんちようにコツコツと



④ と石、ヤスリで穴を広げ、仕上げる。



⑤ そして、完成！！



水にぬらしながら、砥石で根気よく削って穴を広げる。



① → ② (穴あけ) → ③ (完成)



失敗、失敗・・・

3.実践から

郷土の歴史、史跡、文化財を教材化するにあたって、まずは情報収集のため「むなかた電子博物館」を活用しました。

鐘崎貝塚から出土した遺物は、宗像市市民活動推進課埋蔵文化財整理作業所に保管されているものを借用しました。

また、県立宗像高校に保管されている宗像郷土館の遺物やこれまで文献で紹介されている写真や図を引用、活用させてもらいました。

郷土の鐘崎貝塚を教材にして、子どもたちは、「数千年前の縄文時代の人々のくらしがあったんだな」と興味・関心を持つことができたと思います。

そして、本物の遺物を直にみたり、さわったり、写真や図をみていくことによって、宗像の縄文時代の人々が海や山々の恵まれた自然環境の中で狩猟や漁労をおこない、たくましく生活を営んでいた様子を知ることができたと思います。

貝輪づくりの体験活動では、当時の道具（石づち、砥石）を使って、貝殻を石づちでコツコツと叩き、砥石で削って穴を少しずつ広げ、仕上げていくという作業は、予想していた通り大変根気のいる作業となりました。

子どもたちの感想は「穴をあけるまでは何とかできるが、穴を広げて手を通すまではなかなかうまくできなかった。」、「穴を広げるにはものすごく根気が必要だ。」、「腕に通すことができなくて残念だった。」とあり、途中で割れてしまったり、穴をうまく広げることができなかつたり、かなりの苦戦をして、納得のできる完成品までにいたらなかったようでした。（講話と作成を合わせた2時間の枠は若干無理だったかもしれない。）

しかし、「なかなかうまくできなかった」という体験の中から縄文の人々の器用さや加工技術のすごさに気づいてくれたらいいと思います。



何とか完成させた・・・。

4、おわりに

これまでに「子どものための郷土史講座」において、郷土の古代遺跡を教材化し、縄文時代、弥生時代、古墳時代の人々の暮らしについて講話と体験学習、そして遺跡を見学するという構成でおこなってきました。

子どもたちには、この講座を通して郷土の祖先の人たちの暮らし、その時代にくらす人々の工夫や知恵を知るとともに、郷土を愛する心、誇りに思う気持ちが育ってほしいと思っています。

最後に講座を開設していただいた宗像市民図書館に感謝いたします。

参考、引用文献等

1. 「むなかた電子博物館」歴史 文化財 自然
2. 田中幸夫 「北九州の縄文土器」 1936年 考古学雑誌
3. 「山鹿貝塚」1972年 山鹿貝塚調査団
4. 「探検！発見！むなかた」－ふるさとの歴史－ 2006年 宗像市教育委員会
5. 「なるみちゃんの貝輪教室」2001年 市原市文化財センター
6. 「宗像高校視聴覚ホール 郷土資料図版・目録」1984年
福岡県立宗像高等学校図書館
7. 古川清行『しらべ学習に役立つ日本の歴史』「縄文式土器とたて穴住居をしらべる」
1955年 小峰書店

8. 花田勝広 「宗像郷土館の研究2」1994年 文化財学論集
9. 「小学校学習指導要領」2008年 文部科学省
10. 北 俊夫「平成20年改訂 小学校教育課程講座 社会」2009年 ぎょうせい
11. 貝輪づくりの情報は、インターネットを活用し、作成方法については東京都埋蔵文化財センターの竹尾 進氏にご教示を得た。
12. 鐘崎貝塚から出土した貝輪は3点確認されている。使用した貝は、ベンケイガイかタマキガイと思われ、玄界灘沖にも生息している。

今回の講座にあたり宗像、新宮、芦屋海岸を歩いて貝の採集を試みたが津屋崎渡半島の海岸で小さなベンケイガイを2枚採集できたのみでまったく採集することができなかった。そこで、ベンケイガイの入手にあたっては、茨城県鹿島市埋蔵文化財センターの糸川 崇氏に大変お世話になった。

(鎌田 隆徳：宗像市立自由ヶ丘南小学校 教頭)